

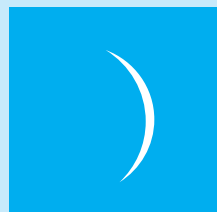
46年ぶりの皆既日食 与論島では95%の部分日食



日食ってなに？

日食は、月が太陽の前を横切ることで、太陽が月に隠れて見える現象です。皆既日食とは、太陽が月によって全部隠される日食のことをいい、部分日食とは、一部が隠れて見えることをいいます。およそ2～3時間掛けてゆっくり変化していき、9割隠れた時点で、夕暮れくらいまで暗くなります。

日本の陸地で見えるのは46年ぶりで、次に見えるのは26年後の2035年になります。



与論島では、月の影で太陽はこのくらいまで欠けました。食の最大95% (10:55ごろ)

子供たちは、日食グラスを片手に、初めてみる日食に興味津々の様子。雲の隙間をぬって見える太陽を見上げ、だんだんと欠けていく太陽の形をスケッチしながら観察しました。

茶花小学校では、観察会のはじめに観察についてのオリエンテーションが行われ、日食がなぜ起こるのかということ、そして観察時の注意点についての話を聞いた後、校庭での日食観察が始まりました。

日本では46年ぶりに見える皆既日食、与論島はおよそ95%が欠けて見える部分日食が観察できました。当日は、朝からどんよりとした雲に空がおおわれ、あいにくの天気でしたが、与論町の各小学校では、夏休み中の子供たちを集め、日食の観察会が行われました。

小学校の日食の観察会に参加した子供たちは、初めて見る日食にとっても感動していたようです。とてもきれいで、次はぜひ皆既日食を見てみたいと話していました。

今回の日食は、日本全国で観測ができるということでしたが、あいにくのお天気で観測ができなかった地域が多いようです。その中でも、これほどの日食が観察できた与論島はとても幸運でした。

与論島での日食の最大となる10時55分ごろには、うすい雲の中から太陽が姿を現し校庭に集まった子供たちが一斉に空を見上げました。少し涼しい風が吹き、あたりはまるで夕方のような雰囲気。薄暗くなった空の下、グラス越しに見る太陽は、まるで細い三日月のようでした。

日食マメ知識

今後日本で見られる中心食は？
(金環日食・皆既日食について)

2012年 5月21日	金環食	トカラ列島、屋久島 種子島など
2030年 6月1日	金環食	北海道の大部分など
2035年 9月2日	皆既食	中部・関東の一部など

※金環食：日食で、太陽の光が月の回りに環のように見える現象。月の本影が地球まで届かないときに起こります。

